

考えよう!

第6回

地球温暖化防止と低炭素社会

町内の環境を守るために、毎月1日号に環境に関する記事を掲載します。



●問い合わせ 環境課 内線 282

今年の夏は、猛暑日が続くなど東浦町でもとても暑い夏となりました。そんな中、「2050年に温室効果ガス排出を実質ゼロにする」との政府の方針が示されるなど、地球の温暖化を抑制するために、二酸化炭素の排出量を減らすことが求められています。

今月は、地球温暖化の防止と脱炭素に進むための低炭素社会について考えてみましょう。

地球温暖化とその影響

気候変動に関する政府間パネル(IPCC)の発表では「自然起源の太陽熱や火山活動、エルニーニョ現象などの自然の内部の動きを考慮しても、気候システムの温暖化には疑う余地はない」と明言しています。日本の気候にも影響が出ており、気温、降水量などが変化しています。

ぼくたち生き物も、すみにくくなっているよ



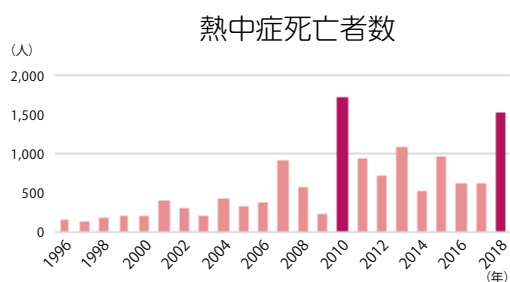
地球温暖化の影響

①平均気温の上昇

- ・地球の平均気温は、産業革命前の1750年頃に比べてすでに1℃以上上昇
 - ・日本の年平均気温は、様々な変動を繰り返しながら上昇しており、長期的に見ると、明治31年～平成31年の100年あたりでは1.24℃の割合で上昇
- ※参考：気象庁ホームページ 日本の年平均気温

②猛暑日の増加、熱中症の増加

真夏日(最高気温30℃以上の日)や猛暑日(最高気温35℃以上の日)となる日が増えています。2010年と2018年は記録的な高温の日が続いたため、熱中症の死亡者数も増加しました。



注：2018年は概数
出典：厚生労働省 人口動態統計より作成

③降水量が増加

- ・北半球では降水量が明治34年以降増加
- ・日本の降水量は、短時間強雨などにより増加傾向

④豪雨の発生、台風の強大化

- ・豪雨が増加し、全国各地で土砂災害や水害が発生
- ・大型の台風などによる被害も世界的に深刻化

今のペースで温暖化が進むと...

日本でも、猛暑日、短時間強雨、無降水日が全国で増加すると予測され、熱中症や災害の増加、生態系や農業、水供給へのさらなる影響が懸念されます。

「温暖化への影響は、人間活動が及ぼしている可能性が極めて高い！」

⇒地球温暖化防止のためには、二酸化炭素の排出量ゼロの「脱炭素社会」の実現が必要です！

低炭素社会はSDGsにもつながります

7



9



13



環境基本計画での町の取組み

■二酸化炭素排出量の削減に向けて

①地球温暖化対策実行計画(事務事業編)を策定し、各公共施設で排出される二酸化炭素排出量の削減に取り組んでいます。

- ・省エネルギー対策

不要な照明を消す、公共施設照明のLED化、冷暖房の節約運用を実施

- ・公用車の排ガス対策

アイドリングストップ、経済的な運転や近距離での公用自転車の活用

- ・日常業務対策

水の使用量の抑制、電子データを利用し廃棄物の発生抑制とリサイクルの推進



②公共交通機関の利用促進

町運行バス「う・ら・ら」を運行し、自家用車から公共交通機関の利用促進

③移動するときは徒歩や自転車の利用促進

自転車歩行者道の新設および改良を行い、利用を促進



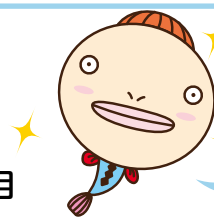
■低炭素社会への促進活動

石油などの化石燃料に替わる再生可能エネルギーへの転換を促進するため、補助金の交付や環境教育に取り組んでいます。



12月は地球温暖化防止月間および大気汚染防止月間

この冬、家族でチャレンジする省エネ行動・5項目



達成したら
チェックしよう！

☐重ね着などの工夫で室温が20℃以下になるよう暖房の設定温度を調整しよう。

☐照明や電気製品は、こまめにスイッチを消そう。

☐電気製品は、長時間使わないときはコンセントを抜こう。

☐不要なアイドリングストップや、急発進、急加速を避けエコドライブを実践しよう。

☐自家用車の使用を控えて、自転車、バスや電車を利用しよう。



省エネ行動を忘れずに生活することが大切だよ。
みんなの力で地球を守っていこう！

東浦町
環境基本計画
実施計画

